

本メールマガジンは山梨大学 新技術情報クラブ会員の皆様へ最新情報をお知らせする目的で配信しております。  
メール配信を希望されない方は、「配信停止」とお書きの上、ご返信ください。

コーディネータコラム

URA・社会連携センター  
知財マネージャー 山口 博

URA・社会連携センターにて知財マネージャーをしています  
山口 博と申します。宜しくお願ひ致します。

小職は、某電機メーカーで知的財産権一筋、と申しましても特許の権利化から契約、活用、交渉、訴訟まで様々な業務を行ってきましたが、無事退職し、現職に着任しました。山梨の素晴らしい山々が、単身赴任する決意をさせてくれました。と山の話はさておき。

知的財産権の中でも発明（アイデア）を保護する特許権（特許）は特許法により保護されます。特許法は産業の発達を目指す産業立法です。大学の特許は自ら実施（製造販売）されることはありません。企業の皆様によるご協力の下、実施頂くことが必要です。

知的財産権の活用に関しましては、特許に限りませんが、ビジネスモデルに応じて活用された事例が弁理士会から公表されていますので、お時間のある時、ご覧頂き身近に感じて頂ければと思います。

[「ヒット商品はこうして生まれた \(jpa.or.jp\)」](http://jpa.or.jp)

極端な例ですが、研究者と企業との連携による最も優れた成功例と言えば、やはりノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智先生とメルク社によるエバーメクチンの実用化ではないでしょうか。

[「panel-ohmura.pdf \(jpo.go.jp\)」](http://panel-ohmura.pdf) この HP では、新薬で 10 億人を救い、得られたロイヤリティはさらに研究等で社会貢献されたことが紹介されています。

特許の権利化は思いついたアイデアとそのアイデアを実施する上で更に必要になるだろうアイデアを掘り下げて特許出願明細書に記載しておくことで、特許にすることは容易と言えます。しかし、特許を取得してもそれを実施（社会実装）することは、企業と言えども容易ではありません。大村先生の発明も、世に有名な Si 半導体のキルビー特許も、「発見」に端を発しています。そして「発見」は常日頃からそのアンテナを拡げていることが重要に思います。「発見」した場合の知財戦略は専門家にご相談されるのをお勧めします。

と、八王子に住んでいた頃、富士五湖まではしょっちゅう来ていたのですが、富士山が偉大過ぎてそれより奥に来ることをしませんでした。しかし、甲府に単身赴任して、周りの山の素晴らしさを知り、休日は各地をそうつき（博多弁）ながら、なぜ人口が増えないのか憂えています。山のある山梨が好きです。

インフォメーション 目次

- 01： プレスリリース ( 4 件)
- 02： トピックス ( 3 件)
- 03： イベント情報 ( 1 件)
- 04： 山梨大学特許公開情報 ( 3 件)
- 05： 事務局からのお知らせ

◆下水中新型コロナウイルスの磁気分離試薬を発売

JNC株式会社と国立大学法人山梨大学 国際流域環境研究センター 原本英司教授は、下水疫学調査用磁性ナノ粒子「Pegcision®キット」を共同で開発しました。開発したキットは、JNC株式会社から2月1日より、販売を開始しましたので、お知らせいたします。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2024/02/20240201pr.pdf>

◆下水中から各種病原体遺伝子を検出できるキットを開発

タカラバイオ株式会社と国立大学法人山梨大学国際流域環境研究センター 原本英司教授は、下水中に含まれるインフルエンザウイルス A/B、腸管系病原性細菌の遺伝子を検出するリアルタイム PCR キットを共同で開発しました。開発したキット（研究用）はタカラバイオ株式会社から本日より販売します。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2024/01/20240131pr.pdf>

◆『ゲノム DNA に内在する 1 塩基変異を簡便に検出できる手法』を開発

山梨大学大学院総合研究部発生生物学の川原敦雄教授の研究グループは、ゲノム DNA に内在する 1 塩基変異を簡便に検出できる新しい手法の開発に成功しました。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2024/01/20240125pr.pdf>

◆指定難病 ANCA 関連血管炎の腎予後の予測方法を開発

山梨大学医学域内科学講座リウマチ膠原病内科学教室の中込大樹准教授と武田伶医師（本学大学院生）らの研究グループは、国の指定難病である ANCA 関連血管炎（顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症）の診断時の腎病理所見から将来の腎機能を予測するスコアを開発しました。腎病理所見を確認することにより、個々の患者さんの重症度がわかり、治療方法の選択（内容、強度、期間）が可能となります。本研究成果は、2024 年 1 月 8 日、国際腎臓学会(ISN)の発行する雑誌 Kidney InternationalReports に公開されました。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2024/01/20240119pr.pdf>

◆テレビ CM 第 2 弾「グリア細胞編」の放送開始のご案内

令和6年2月1日(木)より、テレビCM第2弾「グリア細胞編」の放送を開始します。本学公式YouTubeチャンネルでも動画を公開しますので、ぜひご覧ください。

- 放送局 YBS 山梨放送
- 放送期間 2月1日(木)～2月29日(木)
- 放送CM グリア細胞編

詳しい内容については、下記URLよりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/46348>

#### ◆令和5年度山梨大学客員社会連携コーディネータ研究会開催

令和6年2月9日(金)、甲府キャンパスにおいて、コロナ禍を経て4年ぶりに山梨大学客員社会連携コーディネータ研修を対面で実施しました。

本学では、平成18年度に客員社会連携コーディネータ制度を創設し、包括的連携協定を結んでいる自治体や金融機関等の職員にコーディネータを委嘱しています。この制度は、コーディネータが取引先企業などからニーズを引き出し、本学の研究成果とマッチングさせることで共同研究などを成立させるとともに、社会連携活動の推進に携わる人材の育成し、さらなる地域の活性化に貢献することを目的としています。

詳しい内容については、下記URLよりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/46553>

#### ◆犬飼潤治クリーンエネルギー研究センター教授らの論文が王立化学会会誌に掲載され、裏表紙にも採用されました

犬飼潤治クリーンエネルギー研究センター教授(水素・燃料電池ナノ材料研究センター兼任)と本学大学院医工農学総合教育部工学専攻エネルギー物質科学コース3年のSolomon Wekesa Wakolo(ソロモン ウェケサ ワコロ)さんらの論文が、王立化学会(The Royal Society of Chemistry)が発行する学術雑誌「Physical Chemistry Chemical Physics」に掲載され、裏表紙にも採用されました。

論文の題目は「Various states of water species in an anion exchange membrane characterized by Raman spectroscopy under controlled temperature and humidity」です。

本研究では、世界で初めて、アニオン型電解質膜中の水分子の種類および化学状態と存在量を、振動分光を用いて決定しました。犬飼教授は「本研究結果は、物質化学に新たな知見を与えるのみならず、燃料電池や水電解といったエネルギー技術の基盤的情報になることが期待される」とコメントしています。

詳しい内容については、下記URLよりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/46224>



■03

イベント情報

( 1件)

#### ◆水素・燃料電池ナノ材料研究センター見学会開催

山梨大学附属の水素・燃料電池ナノ材料研究センター見学会を下記の通り開催いたします。

ご興味がございましたら、是非ご参加をいただけますようご連絡を

お待ちしております。

■日時：令和6年3月28日（木）13：15～15：15

■場所：山梨大学 水素・燃料電池ナノ材料研究センター

〒400-0021 甲府市宮前町6-43

※現地集合、現地解散となります。

※車でお越しの際は研究センターの駐車場をご利用ください。

山の手通り「元紺屋」を北に上がりますと約300メートル先の左手になります。（甲斐総社八幡宮の東隣り）

【参加希望者の連絡・ℳ切】

参加ご希望の方は、

山梨大学・産学連携課 豊角 ([ktoyozumi@yamanashi.ac.jp](mailto:ktoyozumi@yamanashi.ac.jp)) まで  
3月25日（月）までにご連絡ください。

詳細につきましては、ナノセンター見学会リーフレットをご覧ください。

<https://www.scrs.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2024/02/c02d8213fd052f7f8a84f63c20cdf069.pdf>

【参考】

水素・燃料電池ナノ材料研究センターHP

<http://fc-nano.yamanashi.ac.jp/>

□ ■

■04 山梨大学特許公開情報 (3件)

本学整理番号：P22-016

出願番号：特願 2022-082600 出願日：2022/05/19

公開番号：特開 2023-170685 公開日：2023/12/01

発明の名称：点滴検知装置

出願人：国立大学法人山梨大学

発明代表者：古藤田 眞和 先生

発明の概要：

【要約】

【課題】点滴筒内を落ちる薬液の滴下を検知するとともに、多方向から点滴の滴下の視認性を確保することができる点滴検知装置を提供する。

【解決手段】本発明によれば、点滴検知装置であって、取付部と、センサと、延出部とを備え、前記取付部は、点滴筒に取り付け可能に構成され、前記センサは、点滴を検知可能に構成され、前記延出部は、前記センサを、前記取付部に対して前記点滴筒の長手方向に延出した位置で保持するように構成され、前記点滴筒の周方向における前記延出部により覆われる割合が、当該点滴筒の全周の50%未満となるように構成される、点滴検知装置が提供される。

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1800/PU/JP-2023-170685/5B978CE4ABAF77DD4F6DE0E09D4B348B44B83DEE77B B68FC93E5BFC1170FD610/11/ja>

本学整理番号：P22-022

出願番号：特願 2022-099559 出願日：2022/06/21

公開番号：特開 2024-000704 公開日：2024/01/09

発明の名称：画像生成方法、プログラム及び画像生成装置

出願人：国立大学法人山梨大学

発明代表者：豊浦 正広 先生

発明の概要：

**【要約】**

**【課題】** 織物パターン画像に内在する可能性がある不具合を取り除くことを容易にする、画像生成方法、プログラム及び画像生成装置を提供することを目的としている。

**【解決手段】** 出力パターン画像生成ステップを備え、前記出力パターン画像生成ステップでは、損失関数を用いて織物パターン画像に補正処理を行うことで、前記織物パターン画像から出力パターン画像を生成し、前記織物パターン画像の各画素値は、経糸及び緯糸の上下関係が特定されるように第1及び第2画素値のうち一方の画素値に二値化され、前記損失関数の値は、画素ごとに算出され、前記補正処理では、補正前後において前記損失関数の値が低下する画素が、補正対象の画素となり、前記補正対象の画素の画素値は、第1及び第2画素値のうち一方の画素値から他方の画素値へ反転される、画像生成方法が提供される。

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1800/PU/JP-2024-000704/7D45D13BC0043576C6AD4E87B8DA2A2C79DB634A2236FDC4B1C630674F27A05C/11/ja>

-----  
本学整理番号：P22-024PCT

国際出願番号：PCT/JP2023/23602 出願日：2023/06/26

国際公開番号：WO2024/014269 公開日：2024/1/18

発明の名称：陽イオン交換樹脂、陽イオン交換膜、電解質膜、電極触媒層形成用バインダーおよび電池電極触媒層

出願人：国立大学法人山梨大学

発明代表者：宮武 健治 先生

発明の概要：

**【要約】**

電気的特性（陽イオン導電率）および化学的特性（ガス透過性および含水性）に優れる陽イオン交換膜、電解質膜、電極触媒層形成用バインダーおよび電池電極触媒層を製造できる陽イオン交換樹脂、その陽イオン交換樹脂から形成される陽イオン交換膜、電解質膜および電極触媒層形成用バインダー、ならびにその電極触媒層形成用バインダーから形成される電池電極触媒層を提供する。例えば、脂環構造を有するビスフェノール残基を含む2価の疎水性基が炭素-炭素結合を介して繰り返される疎水ユニットと、2価のフッ素含有炭化水素基を介して互いに結合する複数の芳香環からなる2価の疎水性基が炭素-炭素結合を介して繰り返される疎水ユニットと、陽イオン交換基含有基と結合している芳香環を有する親水ユニットとが、炭素-炭素結合を介して結合している陽イオン交換樹脂を用いる。

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1800/PU/WO-A-2024-014269/F2CA20430EBB28B8B9E5AB72541AD00FA5B2BBEAA982A4D6FCE9B18C11556496/50/ja>

□ ■

■04 事務局からお知らせ

◆技術課題等、ご相談について

技術課題や大学の知恵を借りたいなど、ございませんでしょうか。

会員会社様の持っておられる技術課題を伺います。

ご希望の会員様がございましたら、事務局までお気軽に連絡してください。

- 
- 
- 1) このメールの内容は、提供された会員様限りでご使用下さい。
  - 2) メールの内容については国立大学法人山梨大学が著作権を有します。

